

令和3年度 自 己 評 価 表

愛媛県立松山聾学校
学校番号(49)

教育方針	聴覚に障がいのある幼児児童生徒に対して、幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、社会自立する人間を育てる。	重点目標	幼児児童生徒一人一人の未来につながる「生きる力」の育成と聴覚障がい教育の充実・発展 (1) 教科横断や地域連携の視点による学習の拡大とカリキュラム・マネジメントの確立 (2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善とICTの活用・研究の推進 (3) 家庭や地域と連携した未来型教育の推進 (4) 地域の聴覚障がい教育の充実に向けた支援と本校の魅力発信
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導・言語指導	個に応じた指導の充実	幼児児童生徒一人一人の特性や学習の状況に応じて授業内容や指導方法を工夫し、分かりやすい授業を行い、学習への興味や意欲を高める。	A	一昨年度、昨年度、今年度と評価が上昇しており、個に応じた指導の成果が表れていると思われる。コロナ禍にあってもICT機器の活用による学びの保障に重点を置いている。	今後も幼児児童生徒一人一人に応じた指導方法をさらに充実させていきたい。
		個に応じた教育実践を行うための個別の指導計画を作成・活用し、本校幼児児童生徒への基礎学力の定着・向上を図る。	A	教職員間で個別の指導計画を活用することで、担当教員が変わってもスムーズに引き継ぎができるようにしている。基礎学力の定着に力を入れた指導を行っている結果が表れていると思われる。	今後も個別の指導計画の活用について、教員に周知徹底する。
	読書指導の充実	読書感想文・感想画の作成、多読者表彰等の本に親しみ、読書意欲を高める活動を推進する。個々の発達に応じた図書の利用を進め、一人平均月3冊・年間30冊以上の読書冊数を目指す。	B	小学生はほぼ目標数以上読書している。中高生は、学期ごとにお薦めの本を書くという目標にし、ほぼ達成した。また、感想文・感想画の作成、ライブラリーニュースの発行、新刊図書の案内・啓発に努めた。	1月に新しい図書館システムを導入し、データの入力を進めているところである。次年度から、より魅力的な図書館環境を目指す。
	専門性及び資質の向上	ICTを活用した授業や幼児児童生徒の主体的・対話的で深い学びの授業の在り方について研究する。また、積極的に他部の授業参観や、幼児児童生徒の実態に即した研修を行い、専門性の向上を図る。特別支援学校教諭免許状(聴覚障がい領域)取得率は全教員の80%以上を目指す。 A: 80%以上 B: 75~79% C: 70~74% D: 65~69% E: 64%以下	B	ICT活用レベルアップ研修として全校研修会を5回行った。また、各部でも実態に応じたICT研修を行い、機器の活用を進めた。授業参観週間はICT機器の使い方を示して行った。 特別支援学校教諭免許状取得率は、昨年度、今年度ともに70%台後半である。今年度も昨年度に引き続き聴覚障がい領域の免許状を持っている教員の異動が相次いだため、取得率は微減となった。	主体的・対話的で深い学びについての研究や幼児児童生徒の実態に即した研修はあまりできなかったため、ICT活用研修と共に聴覚障がいや発達障がいなどについての専門性向上研修にも取り組みたい。 免許状未取得者のほとんどが、免許状に必要な単位を修得中であるため、今後の取得率向上を期待したい。
特別支援教育体制	キャリア教育の充実	望ましい勤労観・職業観の育成を図るため、全教職員の共通理解の下、キャリア教育を推進する。また、社会自立に向けて必要な資質と学力の向上を図りつつ、進学及び就職指導・支援の充実を努め、卒業生の就労及び定着支援等に係るアフターケアについても、外部関係機関との連携の下、年間20件以上の実施を目指す。 A: 20件以上 B: 15~19件 C: 10~14件 D: 5~9件 E: 4件以下	B	特に教職員からの評価が低い。保護者に対する進路支援課からの情報提供が足りていないと教職員が感じているとの結果が出ている。 アフターケアについては、直接事業所を訪問したのは7件だが、昨今の情勢を踏まえ、電話やメールでの支援や勤務状況確認も多くなっている。	現場実習やアフターケアなど、公表は難しい情報も多いが、扱いに注意しながらできる限り情報を進路支援課だけで留めておかず、教職員にも提供し、多くの教職員から適切に保護者・児童生徒に進路の情報が届くようにする。
		小中高等部において、キャリアパスポートを作成し、学校行事等の目標や経緯、自己評価を蓄積し、系統的・継続的に活用することで、児童生徒の主体的に学ぶ力を育む。	B	今年度から実施を試みているキャリアパスポートだが、まだまだ使用方法や有用性について周知が進んでいないと思われる。	キャリア発達に有効なキャリアパスポート使用の流れについて、工夫して実施している先生方から伺い、情報を共有し、有効活用できるように研究を深める。
	自立活動の充実	一人一人の教育的ニーズや本人や保護者の願いを踏まえ、個別の教育支援計画や自立活動の個別の指導計画を作成し、教育活動全体を通じて自立活動の指導の充実を図る。	A	児童生徒、保護者の評価において、肯定的な評価の割合が高く、自立活動の指導の在り方について理解が得られている。	自立活動の指導については、本校教育の根幹となるところであり、幼児児童生徒一人一人の障がいの状態や実態に合わせた個別具体の指導が適切に行えるよう計画的・組織的に取り組み、更なる指導の充実を図っていきたい。
	聴覚障がい教育のセンター的機能の充実	ネットワーク会議等を通して関係諸機関との連携を深め、協働による支援の充実・発展を目指す。教育相談、ホームページや広報誌を通して、聴覚障がいに関する教育、医療、福祉に関する情報を校内外に提供する。	A	新型コロナウイルス感染拡大により難聴特別支援学級担当者ネットワーク会議は中止とし、必要に応じて各校と連携を図りながら、訪問等による支援を行った。人工内耳関係機関とのネットワーク会議はリモートで開催した。	今後も教育相談の充実と広報誌やホームページを活用した聴覚障がい教育に関する情報発信に努めつつ、本校の教育活動に対する理解を広げていきたい。

		地域の聴覚障がいのある幼児児童生徒の希望や実情に沿って、400件以上の教育相談や70件以上の訪問支援を行う。サマースクールや幼児体験学習、公開講座、学校公開等への参加を呼び掛け、本校の教育活動への理解が得られるように努める。 A：教育相談も訪問支援も達成 B：片方は達成し、他方は8割以上達成 C：両方とも8割以上達成 D：片方は8割以上達成、他方は6割以上達成 E：Dを達成せず	C	新型コロナウイルス感染警戒期・感染対策期等で教育相談や訪問支援が実施できなかった時期があり目標数値に到達できなかったものの、可能な限り地域の聴覚障がいのある幼児児童生徒の教育的ニーズや在籍校（園）からの依頼に応じて教育相談や訪問支援を実施した。 各部でサマースクールを開催し、多くの幼児児童生徒や保護者の参加を得ることができた。 学校公開や愛顔（えがお）のふれあいフェスタを開催し、障がいの有無に関わらず、地域で学ぶ児童生徒と本校幼児児童生徒が交流及び共同学習を通して、互いの理解を深めると共に、本校の教育活動に対する理解を得る機会となった。	今後も地域のニーズに合わせて聴覚障がい教育のセンター校としての機能を果たしていく。
生徒指導	安全教育の充実	様々な状況を想定した避難訓練を学期に1回以上行い、幼児児童生徒及び教職員の自助・共助の意識を高める防災教育を推進する。防災教育、交通安全教育等の具体的な活動を通して、安全への意識や実践力を高める。また、医療機関との連携により、医療的ケアを安全に実施する。	A	児童生徒、保護者、教職員ともに高評価を得ている。特に医療的ケアについては、保護者を含め関係者で情報を共有し、校内体制の改善に反映させるなど安全に実施することができた。	今後も、現状に満足することなく、様々な状況を想定し、具体的な活動を通じた安全教育の充実に努め、安全への意識や実践力を高めていきたい。
	人権・同和教育の充実	「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見に努め、学校全体で組織的に対応する。年間3回以上の人権学習を実施するとともに、人権・同和教育だよりを発行し、幼児児童生徒、教職員、保護者への啓発を行う。	C	児童生徒と保護者からはそれなりの評価を得ているが、教職員からの評価が低いという結果が出ている。	児童生徒数が少なく、それに伴っていじめの認定もほとんどないので、教職員の人権・同和教育への意識が希薄になりがちである。人権・同和教育の内容は、いじめの問題だけではないので、様々な角度から人権・同和教育にアプローチして、教職員の意識啓発を行いたい。
業務改善	適切な勤務時間	月に2回、放課後に職員会議等があり、部活動がなく、教職員全員が勤務時間後に早めに退勤できる日に「ノー残業デー」を設け、教職員の勤務時間の適正化を図る。	B	「ノー残業デー」の取組については、約80%の良い評価を得られている。教職員の勤務時間の適正化という意味で、一定の役割は果たしていると思われる。	教職員の勤務時間の適正化には、各課及び各自の仕事分担等が関係する。その分担を決めることは容易ではないが、今後の課題である。
学校運営	学校の情報発信	学校ホームページを毎日1件以上更新し、保護者や外部への学校の情報発信を充実させることで、本校の魅力を多方向にアピールする。 A：1日平均2件以上の更新 B：1日平均1.5件以上2件未満の更新 C：1日平均1件以上1.5件未満の更新 D：1日平均0.5件以上1件未満の更新 E：1日平均0.5件未満の更新	A	ホームページの更新については、1日1件以上できており、動画サイトへも1か月に1度以上本校の様子を撮った動画を投稿している。	今後も情報発信を継続し、学校の魅力化アピールに繋げたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。